

えの教頭

三重県公立小中学校教頭会
〒514-0003 津市桜橋2丁目142
教育文化会館別館3階
TEL 059 (228) 2340
FAX 059 (228) 2271
E-mail:mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



5月11日（木）に「第58回三重県公立小中学校教頭会定期総会」におきまして、私を含め8名が新役員として選任されました。今年度は、3年ぶりに参集型開催とし、一堂に会しての総会が行われたことを嬉しく思う反面、集まった皆さんの思いを受けとめ活動していくことの重責に身の引き締まる思いです。役員一同、精一杯務めさせていただきます。

さて、新型コロナウイルス感染症が5月8日から、5類感染症に位置づけがかわり、様々な教育活動が以前のように行われるようになってきました。しかしながら、コロナ禍を契機に見直した教育活動を、以前のように実施することに戸惑いや難しさを感じていることと思います。この3年間で行事に対する意識や生活様式は変化しました。今こそ、子どもたちに必要な教育活動は継続し、課題となっている教育活動は大きく見直す必要があります。特に教職員の長時間労働が問題となる中、教頭の職務も多種多様となり、労働環境も大変厳しい状態が続いています。教育活動の精選は喫緊の課題です。私たち教頭は、今後も持続可能な教育活動を創造し、教職員一人ひとりがいきいきと働くことができ

るよう、不易流行を考え、より適切な学校運営に取り組んでいかなければなりません。

今年度から教員免許更新制にかわり、学校管理職も「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を行います。子どもたちと同様に、教師自身も資質向上のために主体的な学び、個別最適な学び、協働的な学びが必要です。管理職自らが学び続け、範を示しながら教職員の学びを支援していくことになります。

このように教育を巡る状況の変化が速度を増す中、本教頭会は、持続可能な学校運営を考え、学び続ける姿勢と強いつながりをもって、活動していかなければなりません。「教頭としての力量を高めること」・「社会的地位の向上」に向け、教育政策への積極的な提言を行っていきます。

最後になりますが、会員の皆様方のご理解とご協力をお願いし、就任にあたっての挨拶とさせていただきます。



令和5年度 県教頭会本部役員名

| 役 職 | 名 前 | 学 校 名 | 名 前 | 学 校 名 |
|-------|---------|--------------|---------|-----------|
| 会 長 | 岩 森 真 一 | 玉城町立下外城田小学校 | | |
| 副 会 長 | 福 増 尚 子 | 名張市立すずらん台小学校 | | |
| 副 会 長 | 花 井 清 美 | 桑名市立益世小学校 | 平 井 知 子 | 津市立北立誠小学校 |
| 書 記 | 小 井 正 樹 | 四日市市立下野小学校 | 奥 田 健 司 | 松阪市立幸小学校 |
| 会 計 | 山 本 時 生 | 熊野市立飛鳥小学校 | 竹 花 律 子 | 津市立村主小学校 |

| | |
|-------|-------|
| 事務局 長 | 辻 幸 子 |
| 事務局 員 | 山 本 博 |

E-meil : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://mie-kyotokai.jp>

令和5年度

研修会並びに第58回定期総会が開催されました

令和5年5月11日(木)、三重県総合文化センターにおいて第58回定期総会が開催されました。久しぶりの参集型の定期総会ではありましたが、会員の皆様のご協力のおかげで、90%近



昨年度役員のみなさん ありがとうございます

いという高い出席率で盛会に行われました。

議事・進行につきましても、議長をはじめ、旧役員の皆様のスムーズな運営により、予定通りに会が進行され、すべての議事が承認されました。

研修会では、三重大学教育学部教授・副学部長 三重大学・津市子ども教育センターセンター長 松浦直己さんによる『きわめて対応の困難な保護者に対して～やってはならない対応・正解はないが不正解はある～』についての講演が行われました。



今年度の役員です よろしくお願ひします

日頃、学校現場においては、様々な保護者対応をしています。ときには、学校と保護者はすれ違い、対立することがあります。しかしながら、「学校と保護者は子どもを育てる上で対等なパートナー」です。この原点に立ち返り、保護者に寄り添っていくことや、保護者を理解しようと努力することが必要です。また、学校がすべきことと、保護者の役割を明確にしていくことが大切であるご示唆いただきました。

そして、管理職の初動体制におけるリーダーシップと、判断力の重要性についてもお話いただきました。松浦先生のご講演をきっかけに、教頭である私たちが学校という一定の枠組みの中で、より児童・生徒に継続的な教育を施し、様々なニーズに対応できるような居場所を先生方とともに作り上げていきましょう。

令和5年度 県教頭会 専門部員名

◎部長 ○副部長 ◇本部

| | | | | |
|-----|------------------|-----------------|----------------|--------------------|
| 総務部 | ◎ 二見 哲生 北林 晃 | ○ 山村 裕見子 | 奥村 仁 | ◇ 岩森 真一 ◇ 福増 尚子 |
| 研究部 | ◎ 武藤 将弘 前納 真紀 | ○ 片岡 弓 奥井 守 | 稲垣 拓弥 福岡 信吾 | ◇ 花井 清美 ◇ 平井 知子 |
| 調査部 | ◎ 白井 聡 濱地 章記 | ○ 竹尾 到 小林 元佳 | 森井 太郎 崎本 伸也 | ◇ 山本 時生 ◇ 竹花 律子 |
| 広報部 | ◎ 鈴木 真弓 山本 浩蔵 | ○ 村田 文昭 | 城山 崇 | ◇ 小井 正樹 ◇ 奥田 健司 |

令和5年度 郡市会長・県教頭会理事名

| 郡市名 | 会 長 | | 理 事 | |
|----------|-------|---------|--------|--------|
| | 名 前 | 学 校 名 | 名 前 | 学 校 名 |
| 桑名市・桑名郡 | 小林 信行 | 大山田西小学校 | 武藤 将弘 | 長島中学校 |
| いなべ市・員弁郡 | 稲垣 拓弥 | 大安中学校 | 稲垣 拓弥 | 大安中学校 |
| 四日市市(小) | 松本 克也 | 塩浜小学校 | 鈴木 真弓 | 川島小学校 |
| 四日市市(中) | 野間 達也 | 朝明中学校 | 森井 太郎 | 内部中学校 |
| 三重郡 | 佐藤 雅美 | 八風中学校 | 白井 聡 | 菰野小学校 |
| 鈴鹿市 | 小倉 整 | 平田野中学校 | 奥村 仁 | 旭が丘小学校 |
| 亀山市 | 谷 伸 | 亀山西小学校 | 村田 文昭 | 亀山中学校 |
| 津市北 | 谷口 勝彦 | 芸濃小学校 | 北林 晃 | 草生小学校 |
| 津市中 | 大杉 司和 | 片田小学校 | 竹尾 到 | 東橋内中学校 |
| 津市南 | 櫛田 誠 | 久居東中学校 | 片岡 弓 | 一志西小学校 |
| 松阪市 | 成瀬 佐和 | 豊田小学校 | 濱地 章記 | 久保中学校 |
| 多気郡 | 大原 聡 | 勢和中学校 | 前納 真紀 | 三瀬谷小学校 |
| 伊勢市 | 沼田 崇 | 四郷小学校 | 奥井 守 | みなと小学校 |
| 度会郡 | 春木 淳志 | 度会中学校 | 二見 哲生 | 大宮小学校 |
| 鳥羽市 | 橋本 清久 | 弘道小学校 | 小林 元佳 | 鳥羽東中学校 |
| 志摩市 | 越山 弘之 | 磯部小学校 | 城山 崇 | 浜島中学校 |
| 伊賀市 | 宮本 鎮郎 | 久米小学校 | 福岡 信吾 | 柘植中学校 |
| 名張市 | 的場 秀典 | 梅が丘小学校 | 山村 裕見子 | 北中学校 |
| 紀北 | 小島 敏克 | 向井小学校 | 山本 浩蔵 | 矢浜小学校 |
| 紀南 | 仲森 久 | 木本中学校 | 崎本 伸也 | 井田小学校 |

令和5年度 新任 教 頭 名

4月1日現在 103名

| 地域 | 名 前 | 学 校 名 | 名 前 | 学 校 名 | 名 前 | 学 校 名 |
|-------|--------|--------|-------|--------|-------|----------------|
| 北 | 宮田康弘 | 立教小 | 近田康子 | 多度青葉小 | 水野直美 | 多度中 |
| | 水越純子 | 陵成中 | 福島聡子 | 光陵中 | | |
| | 伊藤加奈子 | 木曾岬小 | 児玉和典 | 三里小 | 黒田友美 | 藤原中 |
| | 橋本直明 | 十三社小 | 小林いづみ | 稲部小 | 伊藤幸洋 | 神田小 |
| | 後藤典子 | 三和小 | 岡野さくら | 浜田小 | 岩田章子 | 富洲原小 |
| | 貝田仁美 | 中部西小 | 浅倉昌史 | 山田小 | 三厨浩希 | 河原田小 |
| | 田中光美 | 常磐小 | 辻久美 | 三重小 | 森景子 | 八郷小 |
| | 生川美俊 | 県保々小 | 山根良公 | 常磐西小 | 天野耕治 | 八郷西小 |
| | 鈴木孝理 | 三重北小 | | | 角間由起子 | 富洲原中 |
| | 三山路綾子 | 三港滝中 | 樋口範之幸 | 山手々中 | 早川孔二 | 羽津中 |
| 勢 | 岡野宗博 | 三桜野中 | | | | |
| | 加小納林英輔 | 孤野府小 | 森川敬博 | 玉垣小 | 長島浩二 | 天名小 |
| | 細田正義 | 国鈴西小 | 伊山博 | 旭が丘小 | 澤井寿和 | 庄内小 |
| | 佐藤野良 | 桜島小 | 奥山 | 清和 | 伊藤佳代子 | 大木中 |
| | 天久間仁夫 | 千代崎中 | 松尾信子 | 白川小 | 中村圭祐 | 井田川小 |
| | 佐久間久仁 | 昼生小 | | | | |
| | 岡田森茂 | 加太小 | | | | |
| | 鈴木ひとみ | 千里ヶ丘小 | 野田幸代子 | 黒田観中 | 清長隆司 | みさとの丘学園(後期)朝陽中 |
| | 松井伊都子 | 芸濃中 | 山川貴由樹 | 東育生小 | 小宮田佳俊 | 神戸西が丘小 |
| | 杉村玲祥 | 一身田中 | 三谷合美穂 | 高野尾が丘中 | 中山順子 | 八ッ山小 |
| 松 | 池村直美 | 第五小 | 塩野法子 | 花岡小 | 大西正洋 | 大河内小 |
| | 高濱千嘉美 | 第一小 | 西尾祐陽 | 小野江小 | 川谷直哉 | 米ノ庄高中 |
| 阪 | 小平一仁 | 外城田小 | | | 長谷川香 | 飯高台中 |
| | 大森清之 | 宮川中 | | | 遠井 | 大台中 |
| 南勢・志摩 | 山田水奈子 | 城田小 | 平生勇 | 城田中 | 西岡正文 | 倉田山中 |
| | 岡井秀貴 | 五十鈴中 | 村田恵理 | 有田小 | 奥村政貴 | 南島西小 |
| 伊賀 | 中山和浩 | 田南中 | 小林元佳 | 鳥羽東中 | | |
| | 廣澤昌昭 | 成和東小 | 廣畑由紀代 | 島ヶ原小 | 水守憲司 | 大山田小 |
| 名張 | 川口裕子 | 桔梗が丘東小 | | | | |
| 紀北 | 川井衛 | 赤羽中 | | | | |
| 紀南 | 濱田泰広 | 井戸小 | 辻井敬浩 | 入鹿小 | 廣加藤光展 | 新鹿中 |
| | 鈴木克彦 | 御浜小 | 中川貴重 | 阿田和 | 加本吾至 | 神志山中 |
| | 脇本久美子 | 御浜中 | 川口重紀 | 阿田和 | 谷 | 矢渕中 |

新しい風



『0(ゼロ)』からの スタート

桑名市立立教小学校

宮田 康弘

3月まで校長先生をはじめ、職員や子どもたち、保護者から「宮田先生」と呼ばれてきましたが、4月からは「教頭先生」と名前ではなく役職名で呼ばれるようになりました。自分の立場が変わったとしみじみ感じました。同時に子どもたちを指導する生活から一変し、教育委員会からの文書の管理や処理及び調査、PTA活動及び地域活動に関する支援や事務処理、学校行事の企画・渉外など、業務の多さは想像を絶するものでした。効率よく事務処理をする以前に、優先順位がわからず時間だけが過ぎていきます。しかも初めての小学校での勤務で中学校とは勝手が異なり、何もかもが「初めて」の経験で毎日が不安との闘いです。そのような中、日々校長先生から労いと励ましの言葉をいただき、心の支えとなっています。これまで何回もわからないことを前任の教頭先生にお聞きして解決してきました。お聞きする度に「またわからないことがあれば聞いてくださいね」という言葉に安心をいただいています。

教諭時代、子どもたちと関わる中で「わからないこと、できないことは決して恥ずかしいことではない。わからないことがわかるように、できないことができるようになる所が学校」、「成功の秘訣は失敗を恐れず、楽しむこと」、「失敗は自分の経験値を上げる最良の教師」と言い続けてきました。立場は違えど「わからない」「できない」「失敗」のキーワードは今の私自身に全て当てはまります。今まで子どもたちに言い

103名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。

続けてきたことを、今度は自分自身に言い聞かせながら何事もポジティブに捉え、一日も早く自分の持ち味や強みを発揮できるように努力していこうと思っています。最後に、いつも見守ってくださる校長先生、前任の教頭先生、先輩の教頭先生方に感謝するとともに、教頭としての仕事を自らの生きがいや喜びに変え、この職を楽しみたいと思います。



「つながり」を大切に

東員町立三和小学校

後藤 典子

「とにかく忙しくて大変だよ」と教えられ、覚悟して臨んだ新しい職。本当に毎日、たくさん書類が次々と押し寄せてきます。でも、それらを自分一人で切り盛りするわけではなく、わかりやすく付箋をつけ、整理して渡して下さる事務の先生、仕事を分担し、内容を詳しくチェックしていただく校長先生、分からない時にはいつでも電話するとやさしく教えて下さる前任の教頭先生。どの先生もとても心強い存在です。おかげで何とかのりきった2ヶ月です。さらに、それぞれ報告した文書の背後には、関係機関の方々の存在があります。網の目のように実に様々な人々が関わって、校務は成り立っているのだと感じます。

登下校の見守りボランティア、草刈りなどの環境整備には、地域の方も関わっています。子どもたちが元気に登校する背後には、保護者の方々の支えがあります。さらに、毎日の授業で、よりよい学級集団を創るために尽力される先生方がいます。子どもたちの成長は、こうした縦

横無尽の「つながり」のもと育まれているのだと改めて思います。

市町教頭会は教頭先生同士の横のつながりを感じ、行くとほっとします。「これはこんな風になっているよ」など、自分では思いつかなかったやり方や考えを教えてもらえます。それに、各校の情報交換は、とてもためになります。疑問や悩みもアウトプットすることで、もう一度自分を見直すことができるからです。

時代の変化はめまぐるしいですが、過去からの未来へ、人と人の脈々としたつながりがあって、一つひとつの取組が今年度もすすめていきます。私も新たな「チーム三和」の一員として、人と人をつなげる役割に徹していきたいと思います。「つながり」を大切に、「俯瞰・傾聴・実践・改善」を心がけていきます。「子どもの姿から出発する」教育理念はぶれることなく、何のために取り組むのかの検証も忘れずに。



教頭になって

四日市市立小山田小学校

浅倉昌史

今から20年以上前、私は「先生」として出発しました。初めての学校で、始業式をむかえる前に先輩の先生から、「初めてでわからないことがあるのは当たり前。でも初任の先生もベテランの先生も子どもたちの前では「先生」なんだから自信をもって」と、声をかけられました。そして迎えた始業式。子どもたちは「先生、一緒に遊ぼう」「先生、これ教えて」など、いっぱい話しかけてくれました。先輩の先生が言うように子どもたちにとって私は「先生」だったのです。どんなに疲れていても、子どもたちの「おはようございます」という元気な声を聞くと、1日ががんばれる気がしました。「あの時、パワーの源は子どもたちだったなあ」と20年以上前が懐かしくなります。今年の4月そんなことを思

い出していました。

「新任の教頭」「新しい学校」と新しい環境に多くの不安がありました。「わからないことがあるのは当たり前。新任教頭も教職員の前に立ったら「教頭」なんだから、しっかりしなくては」と、自分自身に言い聞かせ、小山田小学校へ来ました。「教頭先生、〇〇はどうなっていますか?」「教頭先生、〇〇を教えてください」など、思った通り初日から私は「教頭先生」だったのです。

引継ぎにあった業務ですら、すべてを把握できていないのに、実際に仕事を始めると、引継ぎにはないようなことが次々と起こります。校長先生の指示を仰いだり、前任の教頭先生や近隣校の教頭先生に電話をしたりと、少しずつ仕事を覚えめました。今の私の元気の源は何だろう?と考えると、教職員が毎朝元気に「おはようございます」と目を輝かせて出勤してくれること、そんな先生たちに見守られながら「おはようございます」と元気に登校してくる子どもの姿。20年以上前とちがうのは、子どもの姿だけでなく、教職員の姿も考えられるようになったこと。教職員、子どもたちからパワーをもらっている毎日です。



笑顔あふれる 学校をめざして

四日市市立羽津中学校

早川孔二

教育委員会からの転任。久しぶりに現場に戻って真っ先に感じたこと。先生は大変だ。4月は、右も左もわからないままに、多くの提出文書にまみれ、あっという間に過ぎ去った。久しぶりに学校現場に戻ると、先生方の仕事は本当に忙しく、大変であることに改めて気づく。教頭として何ができるだろうか。職員室の担任とはよく言われるが、本当にそうでなければと実感する。

例えば、部活動などでは、チームに共通の目標を示したことによって、それぞれがその目標を達成しようとする。さらに、個人として不足している部分をチームが補ってくれる。そこでカギを握るのが、コミュニケーションであり、一人ひとりの意識の高まりであり、目的・目標の共有化であった。それは、学校組織でも同じではないかと改めて気づく。

私が現場を離れていた3年間はコロナ渦で、学校現場は大きな変化があった。それは、毎年恒例行事のように実施される活動も、その年の子どもたちにとって何のためにあるのか、そのねらいを実現するために今年は内容をどう見直すべきか、を子どもたちの実態や教職員の課題意識に基づいて考えることを重ねてきた3年間であったのではないかと。そうした問い直しに必要なのが、目的・目標（ビジョン）の共有化であると教頭という立場になり実感する。目的・目標の共有化のポイントになるのがやはりコミュニケーション。職員同士の関係は、「縦の関係」でもなければ「横一線」という感じでもない。だからこそ、コミュニケーションが多方向にできている学校にしたい。そして、その機会を作るのも、教頭。きっとそれが、同じ目的・目標に突き進む仲間になる。共通した意識の高まりは、職員の笑顔を生む。職員の笑顔があふれる学校には、きっと子どもたちの笑顔もあふれている。こんな理想はあるが、まずは自分が笑顔で勤務しよう！！



日々精進

菰野町立菰野中学校

小林英輔

教頭として赴任先が決まった時、「二人教頭だからいろいろと教えてもらえて、勉強になるよ」や「二人教頭はいいよね」と着任前に今までお世話になってきた教頭先生から言われているうちに4月1日を迎えました。教頭が二人だから、いろいろな業務も半分になり時間的な余裕はあるだろうという見通しはすぐになくなり、かつ二人教頭ということは、教職員数も多く、教職員の名前を覚えるだけでも赴任直後は精一杯でした。また私が新任教頭という事もあり、二人の間では、業務分担はしているのですが、教委への提出書類や連絡、外部機関との折衝方法や教職員への声掛けなど、気になる場所が多々あると思うとともに負担をかけているのではないかと思います。

二人教頭なら常時職員室に二人がいると思われませんが、先生方の授業を見に行くことや業者との打ち合わせ等で、職員室に教頭が一人の時もあります。赴任したばかりの時に緊急対応をすることがありました。何とか無事に終わったのですが、教頭として職員への指示を素早くて確にすることができませんでした。まさに「言うは易く行うは難し」であることを実感するとともに、二人教頭の職場でも、教頭の責務の重さは同じであることに気づかされました。教頭として2か月たちますが、隣にいるもう一人の教頭先生や先輩方のようにいろいろな事象に対して素早くて確に対応出来るようになりたいです。日々努力するとともに生徒・保護者、教職員や地域の方とともに学校を創っていける教頭になれるよう頑張りたいと思います。



周りの方々の 温かさに支えられて…

鈴鹿市立旭が丘小学校

伊川 敬子

旭が丘小学校の一員となり、2か月が過ぎました。何年かぶりの学校現場、初めての小学校、初めての教頭職…と、楽しみとプレッシャーを感じながら、4月を迎えました。旭が丘小学校のみなさまがとても温かく迎えてくださり、緊張が少し和らいだのを覚えています。それから、次々にやってくる文書処理や報告、校内の環境整備、日程調整など、慣れない仕事に戸惑うばかりの日々が続いています。本校は大規模校で教頭は複数体制ですが、もう一人の教頭に毎日頼ってばかりの2か月でした(今もなお頼っています…)

子どもたちはとても活発で、いつも元気な声が学校中に響いています。先生方も休み時間になると、グラウンドで子どもたちと一緒に活動し、とてもすがすがしい顔で職員室に戻ってきます。職員室では、子どもたちの様子や授業の進め方などの情報交換が活発に行われています。子どもたちの元気な姿、先生方の一生懸命な姿や行動力に、わたしは毎日元気をもらっています。また、本校はたくさんの支援員やボランティアの方々力が貸して下さり、職員とともに、いつも子どもたちに向き合い、見守ってくれています。みなさまの支えと温かさをひしひしと感じている毎日です。

学校長をはじめ、周りの方々に支えてもらっている毎日ですが、子どもたちが安心して、わくわくしながら学校生活を送ることができるよう、先生方が前を向いて学級づくり、授業づくりに励むことができるよう、保護者のみなさまが毎日安心して子どもたちを学校に送り出していただくことができるよう、温かい学校をめざし、「チーム旭が丘」を合言葉に、今後も自分には何ができるか考え、行動していきたいと思っています。



職員の笑顔の ために！

亀山市立昼生小学校

岡田 久仁夫

新任教頭として赴任した学校は、3年前まで教諭として在籍していた昼生小学校でした。着任したとき、校長先生をはじめ職員のみならず、保護者の方、地域の方も私のことを覚えていてくださり、「お帰り！」と温かく迎え入れてくれました。その言葉が非常に嬉しくて「この昼生小学校へ戻って来られて、本当に良かった」と感じました。着任した日は、迎え入れてもらった嬉しさと「本当に自分が教頭としてやっていけるのか」という不安な気持ちもありました。しかし、2ヶ月間は、次々とやってくる文書の処理、多数の報告、地域の方との連絡・調整、一週間以上の担任代理…等々、想像を絶する仕事量に不安な気持ちをもつ余裕などなく、とにかく目の前の仕事をこなすだけで精一杯でした。

着任前に前任校の教頭先生から、「教頭職は、転職だからね。教頭は、どんな時でも、『はい！Yes！喜んで！』の気持ちでいいといけないよ。」との言葉をいただきましたが、正直なところ理解ができていませんでした。実際、教頭としての仕事が始まると、忙しさのあまり、「はい！Yes！喜んで！」の気持ちをもてませんでした。しかし、こんなことまで教頭先生が仕事をしてくれていたから、教諭時代に気持ちよく仕事をするのができていたんだ…と、陰で支えてくださっていたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ある日、職員室で職員と談笑する機会がありました。ふとその時、最近笑っていなかったことに気づきました。教頭に笑顔がなくて、職員室が重く暗い雰囲気になっていたのではないかと思います。職員室が明るくなり、職員が元気に仕事に取り組めるようにするためにも笑顔を絶やさずに、日々の業務に取り組んでいきた

と思います。現在は、校長先生を支える立場であるはずが、校長先生に支えられています、一日も早く教頭として自立し、職場のみんなが互いに支えあい、昼生小学校の教育活動がより高まっていけるように力を尽くしたいと思います。



心をつないで…

津市立千里ヶ丘小学校

鈴木ひとみ

新任教頭として赴任したのは、かつて、教師として人として様々なことを学ばせてもらった大好きな学校でした。校舎から見える海の青さも、運動場を渡る風の心地よさも、あの頃と同じで、懐かしさとまたここに帰ってこれたという思いで胸がいっぱいになりました。

しかし、すぐに、あの頃とは違った現実があることに気づかされました。次から次へと届く報告文書、生徒指導、保護者対応、PTA関係の仕事・・・あまりの仕事の多さに、職員室の机の前で呆然と立ちすくむこともありました。自分を失いかげそうになっていたそんな私に元気をくれたのは、子どもたちの笑顔、先生たちの一生懸命な姿、校長先生や前任の教頭先生のサポート、事務の先生や栄養職員の先生はじめ職場の仲間たちの優しさでした。また、かつての教え子、保護者、地域の方々との再会は、「もう一度、この学校でがんばろう。今度は教頭として、子どもたち、保護者、地域の方々、そして先生たちのためにがんばりたい。」と思わせてくれました。

2ヶ月たった今も相変わらず報告文書の締め切りに追われ、失敗の度に心折れそうになり、子どもたちや保護者対応、先生たちへのサポート、予測不能な出来事の解決に奔走する日々です。しかし、「教頭は何でも屋」を実感しながら、

少しずつ「教頭の仕事って、おもしろいかも・・・」と思えるようになってきたのも確かです。

教頭は「チーム学校」の軸として先を見て、今すべきことを考え、全体を見て動く。教職員の体や心の変化を誰よりも早く気づき、働きやすい職場環境づくりに取り組むなどなど・・・この2ヶ月の中で芽生えた「教頭としての自覚と責任」をこれから育てていこうと思います。そして、これまでも大切にしてきた、子どもたち、保護者、先生たち、地域の方々の心をつなぐ取り組みを大切にしていきたいです。



明るく楽しく 自分らしく

津市立神戸小学校

矢田佳希

この上ない緊張と不安の中、迎えた4月。私の赴任した神戸小学校は、現在は186名の小規模校であるが、とにかく校舎が広い！！戸締りには1時間程度かかるほどです。万歩計の歩数はこれまでの3倍以上。ちょっとした朝夕のウォーキングタイムになっています。

また、噂には聞いていましたが、4月、5月の調査や書類の山。目まぐるしい毎日を送っていました。仲間からは「教頭ダイエット」と囃し立てられながら、自分でもウエストが細くなっていくことに喜びを感じています。

苦手な事務処理をこなすだけの毎日でしたが、「自分らしさ」を大切にしようとして児童・保護者・教職員・来校者への声かけを積極的に行いました。「自分のことを知ってもらおう」「相手のことを知ろう」という思いを第一にした、安心できる雰囲気づくり、つながり合える仲間づくりの考えからです。これは、私が教員生活や人権教育の中で強く学んできたことです。

激動の2ヶ月を過ごしなが、ふと教員生活を振り返る自分がいました。岐阜県の教員として勤めていた16年前、自分の無力感を感じ「教

員の世界から身を引こう」と退職した時のことを思い出しました。その時に、「もっと力を抜いてできていたら」「もっと誰かに相談していたら」という思いがありました。今、教頭という立場につき、安心して働くことのできる職場、支え合える仲間の大切さを噛みしめながら、教職員を支え、子どもたちの健やかな成長を見守っていきたくと思っています。これからも、自分らしく、自分にできることは何かを問い続けながら、明るく、楽しく、働き続けていきたくと思います。



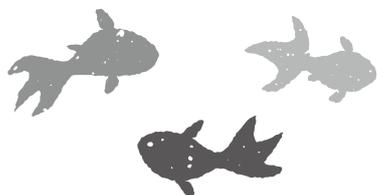
「きょーとーせんせい」 笑顔で「はーい」

津市立栗葉小学校

坂倉 憲子

「きょーとーせんせい」。4月入学したばかりの1年生が廊下で会うと、声をかけてくれます。1年生の担任が、先生たちの顔と名前を1年生が覚えるように、教室に写真を掲示して紹介してくれている効果です。時には、「とーきょーせんせい」と笑顔で呼んでくれる子もいて、癒しのひとときです。

教頭職について、あっという間の2か月でした。これまで、ずっと担任をしてきて、子どもたちと共に過ごしてきた生活が一変しました。提出書類や学校・地域のこと、わからないことばかりで、右往左往する日々です。その都度、いろいろな方に聞いて、教えていただいて、なんとか過ごしています。「教頭は、校長を補佐して・・・」「リーダーシップを発揮して・・・」とやるべき仕事の大切さは、わかっているつもりではありますが、なかなか現実には程遠いところ



ろです。

これまでの教職経験の中で、たくさんの出会いがありました。子どもたち、保護者、地域の方、職場の仲間、管理職の先生との出会いや経験が今につながっています。たくさんの失敗もし、悩んだこともありましたが、そのときいつも相談できる職場の仲間や管理職の先生がいました。自分の思いを話せる、わかってもらえる、一緒に考えてくれる人がいることが、どんなに心強いかをいつも感じていました。まだまだスタートしたばかりで、頼りない私ですが、これからもいろいろな出会い、つながりを大切にしたいです。次は、少しでもだれかの力になれたらと思います。マスク生活も解除されました。気持ちが顔に表れます。余裕のない日々ではありますが、笑顔を忘れず前向きにがんばっていきたくと思います。



たくさんの方々と 「支えあえる学校」に

松阪市立米ノ庄小学校

川井 正洋

息をつく暇もなく、あっという間の2か月でした。毎日慣れない業務に追われ、放課後まで文書整理や提出文書の作成が続き、時間外労働の縮減を呼びかけなければいけない身でありながらそれを実行できないという日々を送っています。

しかし、たくさんの人に支えられながら充実した日々が過ごせています。

まずは子どもたちに支えられています。212人の子どもたちは、勉強にスポーツに力いっぱい取り組んでいます。学習や活動に入れない子がいると、学級のなかまが声をかける等すてきな子どもたちがたくさんいます。子どもたちの笑顔に支えられています。

次に、校長先生をはじめ、職員のみなさんに支えられています。若い職員、中堅の職員、ベ

テランの職員がそれぞれの持ち味を發揮し、子どもたちへの指導、支援にも熱心に誠実に取り組んでいただいています。

そして、保護者、地域の方々にも大きく支えられています。米ノ庄小学校は、コミュニティスクール（CS）として地域の方が様々な場で協力をしてくれます。毎朝「子ども見守り隊」のみなさんが、子どもたちに付き添って一緒に登校していただいています。また、図書室の整備、遠足での子どもたちの安全確保も協力していただいています。また、急をお願いしたにもかかわらず4月の1年生下校の付き添いにも、快くボランティアに駆け付けていただきました。CSの中には「ちょいボラ」という係もあり、コーディネーターさんをお願いすると、地域の方に声をかけてくださり、都合のつく方が学校に助けに来てくださいます。

そろそろ私も支えられる側になっていかなければなりません。もっともっと子どもたち、校長先生をはじめ職員のみなさん、保護者や地域のみなさんを支えられるようになっていったり、たくさんの方々と「支えあえる学校」を一緒につくったりしていきたいとわくわくしています。

みなさま、ご指導、ご鞭撻何卒よろしく願います。



「家庭や地域とともに、 安心安全な学校づくりを」

多気町立外城田小学校

平岡 一 仁

4月に新しい職場に配属になり、ドキドキのスタートでした。異動のときはいつも新鮮な気持ちで、楽しみ半分不安半分です。しかし、今回ばかりは、不安のほうが大きい異動となりました。教諭から教頭へと、職がかわれば仕事内容がかわります。前任の教頭から仕事を引き継いだものの、わからないことへの不安はとても大きかったです。

なんとか4月、スタートを切ることができましたが、ふと、「管理職になると、名前と呼ばれなくなる」と、前任校と一緒に勤務させていただいた方の言葉を思い出しました。確かに「教頭先生」と呼ばれるようになると、名前と呼ばれることは本当に少なくなります。呼ばれ方から、「教諭」から「教頭」になったのだと改めて感じました。

4月に異動とはいうものの、実は教諭のときに以前勤務していた学校で、子どもたちと話したり、保護者の方と話したりすることはとても楽しく、“外城田小学校に勤務できて良かったな”と日々感じています。「先生、お久しぶりです」「先生のこと、覚えています」そんな声をかけていただけると、“懐かしいところに帰ってきた”とほっとできる、そんな温かい学校です。だからこそ、これまでの先輩方の取組を継承しつつ一人ひとりのニーズに合わせて、「だれもが安心できる学校づくり」をしていきたいと考えています。子ども、保護者、地域の方、そして、職員が安心して過ごせる学校づくりを目指していきます。

毎日、子どもたちの元気な声、気持ちの良いあいさつに、すがすがしさと元気をもらっています。今後もそんな子どもたちが育っていくよう、教頭として、できる限りのことに取り組んでいこうと思います。



これはチャンス

伊勢市立城田小学校

山田 水奈子

長年、中学校で勤務をしてきた私が、教育実習以来の小学校へ。中学校と小学校の異文化に戸惑うことも多いだろうと覚悟はしていたけれど、それ以前に教頭職の忙しさに目の回るような毎日を過ごしています。仕事が遅く、はずかしく、情けない思いをすることもしばしば。こ

んなにたいへんな仕事をしてもらっていたのかと驚いています。

余裕のない私を、校長先生をはじめ職場のみなさんが気遣ってくれるのが、そしてそんな私にも何かと相談をしてくれるのが、ありがたくも申し訳ない気持ちでいっぱいです。せめて、頼まれたことは最優先に、そしてできるだけ笑顔でと心がけています。少しでもみなさんの力になりたいと気持ちばかり焦ります。

校長先生は私にとって初めての女性管理職。何でも話せて、たくさんのことを学ばせていただけるよきロールモデルに、このタイミングで出会わせていただけてよかったです。先生方はみな勤勉で、朝は早く、空き時間もあつてないような中、優しく深いまなざしで子どもたちを見てくれています。そして「きょーとーせんせい」と声をかけてくれる無邪気な子どもたちは、たまらなく愛しい。教師になろうと決めたあの頃原風景のようです。思いがけずやってきた小学校ですが、今となってはたいへん貴重な機会をいただけたとありがたく思っています。いつか私も、はしゃぐ一年生の子どもたちを一言で落ち着かせることができるでしょうか。

困ったときはいつでも遠慮なく連絡してと言ってくれる先輩教頭や同期のみなさんが心強い味方です。昇任にあたり、みなさんからいただいたありがたい言葉や教えの数々を胸に、精進したいと思います。どうぞよろしく願います。



何かのきっかけになる存在の 一人になれたらいいな

南伊勢町立南島西小学校

奥村 政貴

「先生が、新しい教頭先生ですか？」数年ぶりに学校現場で働かせてもらうこととなり、本校のある子どもから話しかけられたのが、この言葉でした。「そうです、私が新しい教頭先生

です。よろしくね」引継ぎを受けても、何度も資料やメモを読み返しても、教頭という役職があまりイメージできず、不安を抱えながら新年度を迎えました。ですが、入学式準備のときに高学年の子どもたちがかけてくれた言葉が、「自分は教頭なんだな」と改めて実感させてくれました。

これまでも何度も子どもたちの力に驚かされてきたのですが、朝元気よくあいさつをする姿やトイレのスリッパを並べる姿、ペアやグループで考えを出し合う姿やわからないことを「わからない」と伝える姿など、普段の何気ない場面にも、子どもの姿として教育活動の中で積み重ねられてきた成果を目の当たりにすることができます。

年度初めから、大きなこと、小さなこと、隅から隅まで、「これは大変だ〜」と想像を絶する教頭業務の広さを痛感させられています。ですが、丁寧に指導くださる校長先生と、それぞれの校務分掌を懸命に遂行してくださる教職員に助けられ、チーム学校の素晴らしさも身に染みるほど実感できています。また、長年お世話になっている先輩方や三重の各地でご尽力くださっている教頭先生方の偉大さも感じられます。

教頭としての役割を果たすことは大切にしていきたいですが、一緒に考えたり自分の失敗談を伝えたりする中に、子どもたちや先生方が何かをつかんだり見えたりすることもあるのかもしれない。ともに考え悩み前向きに挑戦していく日々の教育活動の中にも、めざしたい姿があるのは確かであり、授業とよく似ていると感じています。「オールスタッフで全児童の指導支援にあたる」姿勢は、役職を超えて大切にしていくべき姿だと、これまで同様、これからも信じていきたいと思っています。

「教頭先生」と呼んでくれる子どもたちや仲間のために、何かのきっかけになる存在の一人になれたらいいなと、一歩ずつ歩んでいきたいです。



潮風に吹かれて

鳥羽市立答志中学校

大 山 浩

今年から新任の教頭として勤めることになった学校は、鳥羽市の離島「答志島」にある全校生徒25人の中学校です。私の昇任と赴任先を知った知人からは祝福とともに「船酔いは大丈夫?」「毎日通えるの?」などのLINEがありました。教師になって24年間、志摩市と尾鷲市の中学校で勤務してきた私にとって、「離島」での勤務は初めてであり、「朝、船に乗り遅れたらどうしよう?」「仕事が終わらなかつたら、どうやって帰るんだろう?」などの不安がよぎりました。

赴任から2か月が過ぎ、毎朝、鳥羽港のマリンターミナルで潮風を感じながら15分の定期船での通勤にもようやく慣れてきました。今のところ船に酔うこともなく、一日の仕事の段取りや提出書類の締め切りなどを確認しながら定期船に揺られています。

この2か月間を振り返ると、各種会議の事項書作成・運営、数々の報告、PTAや地域の老人会・婦人会・消防団など様々な団体との連絡・調整、チャーター船の予約、わかめ体験、藻場再生事業、あさり堀り…など慣れない仕事、初めて聞く業務内容などに戸惑いながら、ひたすら業務をこなしていく日々でした。2か月間、校長先生、事務職員の方や先生方、地域の人に



支えていただいております感謝の気持ちでいっぱいです。その一方で「管理職」としての自分の未熟さを痛感する毎日ですが、焦らず自分らしく努力を積み重ね、校長先生が掲げる「がいええ答志中」を創り上げるために頑張りたいと思っています。



みんなを 支えられる存在に

伊賀市立大山田小学校

水 守 憲 司

今年度は4月3日始まりということもあって、入学式・学級開きまで3日間。教職員みんなが慌ただしい毎日を送っていました。わたし自身も初めて勤務する小学校だったので、まずどこに何があるのかがわからず困っていると、「教頭先生、ここにいますよ」と、先生方が忙しい中でも優しく教えてくれたり、メールの確認や文書の起案等も校長先生が、「このようにして、文書を起案したらいいですよ」と、丁寧に教えてくださったりしました。私のことを気遣ってくれる先生方の優しさに、忙しい中でも心がほっとあたたかくなりました。

また前任の教頭先生からしっかりと引き継ぎをしていただいたにもかかわらず、いざ学校が動き出してみると、「教頭先生、修繕はどの業者に連絡すればいいですか」などと連絡する日々。そんな中でも一つ一つわかりやすく教えてくださり、電話の終わりにはいつも、「いつでも電話してくださいね!」と話してくれました。他にも調査の報告などが始まる前には、伊賀市の教頭会の会長が「わからへんことあったら何でも聞いてえや!」とわざわざ電話をかけてくれました。その言葉に、『自分一人じゃないんや』と思うと同時に、自分が教師になったばかりの時に関わってくださった先生のことを思い出し、『こうやってたくさんの先生に関わっていただいて、今ここに自分がいるんや』と、

これまでたくさんの先生方や保護者、地域の方に支えられてきたことを改めて感じました。

新任教頭となり2ヶ月が過ぎました。これから自分にしてくれたことを返していけるように、また今まで出会ってきた管理職の先生がしてくれた『先生たちとしっかり情報共有すること』・『先生たちが先を見通せるように、きちんと段取りを組むこと』・『先生たちがほっとする瞬間をたくさんつくること』などを実行して、学校のために、そして何より子どもたちのためにがんばっていきたいと思います。



たくさんの人に感謝して… 子どもたちの成長を!

名張市立桔梗が丘東小学校

川 口 裕 子

県教委から久しぶりに学校現場に戻ってきました。「きっと学校は大きく変化しているのだろうな」と思いながら4月を迎えました。学習端末の活用。働き方改革。コロナ禍による行事の精選、見直し。変化しているものはたくさんありました。

しかし、変わっていないものもありました。毎日の授業を工夫している先生方の姿。出来た時に「分かった!」と目を輝かせている子どもの姿。友だちが困っている時に声を掛けている姿。

「時代とともに変化していくものもあるけれど、学校としての本質は変わっていないな。あー、やっぱり、これが学校現場だな」と感じながら2ヶ月が経ちました。最近、ようやく、授業を観に行くことが少し出来るようになり、多忙な教頭業務の中で授業を観に行ける時は心が弾みます。

また、本校では、登下校の見守りや読み聞かせ、除草作業、子どもたちの主体性を育む「あそびつくすin東小」の活動等を通して、子どもたちはたくさんの地域の人たちにも支えられ

て成長しているんだなということも感じています。

このようなことを久しぶりの学校現場で感じながらも、4月、5月は学校現場の感覚を取り戻すのと教頭業務を覚えていくのに必至でした(今もですが……)。私の業務が少しでもスムーズに進むようにと、校長先生、職場の先生、前任の教頭先生、市内のたくさんの教頭先生、教育委員会の方々が自分の時間を割きながらも親切に教えてくださることに感謝しかありません。このようにたくさんの人に支えていただくなか、子どもたちや、先生方、保護者の皆様、地域の方々に「教頭先生、ありがとう」と言っていただけなのが本当に嬉しいです。まだまだ未熟ですが、頼られ信頼される教頭となれるよう、日々、努力していきたいと思います。よろしくお願い致します。



やらなかったときのリスクよりも、 失敗したときのリスクを取る

紀北町立赤羽中学校

川 井 衛

私は、ここ10年ほどの期間に、校内の教務主任や学年主任を務め、また、学校を離れ、三重県教育委員会事務局小中学校教育課(以下、県教委)で指導主事を務めるという経験もさせていただきました。そしてこの度、管理職に就くことになりました。県教委へ異動した頃はコロナ禍前で、県教委にいる間にコロナ禍が始まりました。そして、学校現場に戻ったときには子どもたちや教職員の状況はガラリと変わっていました。初任から20年ほどの期間に培ってきたと思っていた常識は、非常識となっているとも感じ、学校現場と行政職の違いだけでなく、県教委からの指示とそれに取り組む学校現場のギャップも改めて痛感しました。

尾鷲地区の中学校は、長い間、部活動に熱心な教職員やそれを望む保護者が多く、それが当

たり前のような風土がありました。私が、県教委にいる間に、部活動ガイドラインが提示されました。現場に戻ったときには、この地域の先生方にもしっかりと周知され実践されていました。今では、社会体育への移行を視野に入れた検討がなされています。これも、それまでの常識と思っていたことが覆ったと感じたことのひとつです。

学校は、様々な学習活動の中で、子どもたちが心からの笑顔で過ごせる場でなければなりません。そのためにも、指導する教職員が笑顔で働ける場でなければならないと考えます。この事を胸に、私は、新任教頭として、初めてのことに慌ただしく過ぎているこの約1ヶ月の間、これまで出会ってきた諸先輩教頭の姿を思い浮かべつつ、自分にできる限りの努力で失敗を恐れず果敢に取り組んでいるつもりです。教育に失敗は許されるものではありませんが、取り組まなかったときの生徒や教職員への影響を考えれば、失敗しても、それを挽回し修復するリスクを選択して立ち向かっていきたいと考えています。そして、そこから得るものを逃さず身に付け、子どもたちと教職員の笑顔のために、次へと生かしていく姿勢を大切にしていきたいことを強く決意しています。



いろいろな 支えの中で…

紀宝町立矢渕中学校

谷本 至

4月をふり返ってみると、「教頭」という立場で学校に務め、初めて経験する仕事に、ただただ1人焦って毎日過ごした日々を思い出します。職員から「教頭先生」と声をかけられても実感が全くなく、スルーしてしまうことが多々あったことは苦い思い出です。5月も終わりを迎え、相変わらず毎日やってくるメール処理や学校外部との連携など先の見通しが分からない

ですが、なんとか日々を過ごしています。

教諭として勤務していたときは、学年の先生たちと「ああでもないこうでもない」と常に相談しながら毎日を過ごしてきましたが、教頭という立場になり、「孤独だなあ」と感じることもあります。しかしそんな中で、近頃は「人と人とのつながりの大切さ」の重要性を今改めて感じることも多いです。前任の教頭先生は、初めて教頭職を経験する私のために、お忙しい中、年度当初に必要な育友会関係の準備や提出文書などをほとんど準備してくれていました。近隣学校の先輩教頭先生には、いつも電話で助言をいただいています。また、先日行われた県の教頭研修会では、初任として勤務した学校でお世話になった同僚の先生や部活動を通してつながった先生たちと10数年ぶりに顔を合わせ、「私は一人じゃない」とホッとした気分になるとともに、教頭としての心構えなどをご指導していただきました。教育委員会等役職は違ってご活躍をされている先生方の話も聞け、翌日からの活力となりました。

今まで管理職の先生方にどれほどのことを任せていたのか、この立場になり初めて理解し、本当に頭が下がる思いです。私はまだまだ教頭として経験値も少なく、右往左往する日々が続いていますが、みなさんに支えていただきながら少しずつ成長していきたいと考えています。みなさん、お体をくれぐれも大切に、子どもたちの成長のために、お互いに出来ることから頑張っていきましょう！



郡市だより

「仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成」

亀山市立加太小学校 廣 森 茂 樹

今年度赴任してきた加太小は、実は、若かりし頃、2校目で赴任した学校でもあるので懐かしい校舎、みんなの森という名の里山、そして、教え子が保護者となっているという色々な意味でわくわくした4月でした。

しかし、80人ほどいた全校児童は、32名となり、2・3年生と5・6年生が複式学級、4年生の児童がいないという山の中の小さな小学校です。

小規模校であるが故に、クラス替えもなく、人間関係が固定化し、仲間づくりの難しいところがある中で、少人数のきめ細かな指導が行き届くという利点を生かし、全教職員で全児童に関わり、育てていくことを心に刻み、日々の教育活動にあたっています。

加太小のよいところその1「高学年としての思いやり」

学年をこえ、上の学年が下の学年の面倒をよくみているシーンが見られます。あいさつ運動も縦割り班で声を掛け合い、教室や図書館、職員室へも大きな声であいさつをしにきます。委員会はもちろん、週に一度の業前なわとびなども高学年のリーダーシップが発揮されいきいきと活動に取り組んでいます。

高学年ががんばっていると、低学年の子たちの中にも、自分より下の子どもたちをいたわることに目覚めてきます。1・2年生で地区探検に行った時には「道路側は、2年生が歩くんだよ。1年生はこっちね。」と声を掛け合う2年生の姿が見られました。また、中学校へ進学した時に、室長や委員長になる子が多いのも小学生からの積み上げではないかと勝手に想像してしまいます。

加太小のよいところその2「コンパクトさを生



かしたフットワーク」

多い学年でも、9人しかいないので、「では板屋地区に探検に行ってきます。」とか「ちょっと田んぼを見てきます。」と動けてしまいます。大規模な学校であると、色々な心配をして、「じゃ、見学に行くのは無理だから、ビデオをとってこようか・・・」となるところを「モリアオガエルがそろそろ卵を産む時期だから、裏山の池に見に行きます。」と子どもたちを連れて颯爽と出かけることができるところがとても素敵です。見学が終わって帰ると、職員室での話題にも・・・児童も教師も次は何をしようかと意欲的になれるところはとても最高だと思います。

加太小のよいところその3「地域の人が協力的」

加太小には強力な助っ人がいます。地域の名人です。サルに引っこ抜かれるサツマイモは名人の畑で、自然薯もそうです。梅の観察にもいきます。全校児童に加えて保育園の子どもたちも一緒に田植えもします。全て地域の方のサポートのあるおかげです。「加太の子どもたちは、自分たちの手で」という思いがひしひしと伝わってきます。私たちががんばって教育を行っていかないといけないねと教職員一同思う毎日です。